

笑葉館日記 天保十年

四十

服部文庫
イ 17
2322
40



117
2322
40

天保十一庚子歲

坐右日簿

正月迄ヨリ

四部文庫
117
2733
39

一 諸君同友社... 申
一 諸君同友社... 申

一 諸君同友社... 申
一 諸君同友社... 申

一 諸君同友社... 申
一 諸君同友社... 申

一 諸君同友社... 申
一 諸君同友社... 申

申

己

諸君同友社... 申

一 諸君同友社... 申
一 諸君同友社... 申

申

午

諸君同友社... 申

一 諸君同友社... 申
一 諸君同友社... 申

申

未

諸君同友社... 申

一 諸君同友社... 申
一 諸君同友社... 申

申

申

諸君同友社... 申

一 諸君同友社... 申
一 諸君同友社... 申

一 種の書簡に過ぐ人種古事と反村ありは後美話とて未だ小倉産見
 最初世子信田中よりては、以て居居し事と感ふ、うや、因て海、
 能上りては、如くは、如くは、如くは、如くは、如くは、如くは、如くは、
 附とて居居し事と感ふ、うや、因て海、
 不問事とて居居し事と感ふ、うや、因て海、
 止む、
 廿七

一 物に物傳止り、善佳止り、種書に傳止り、今曉る、
 陸、
 尾、
 廿三

一 主人、今日、凡し、吹、
 根、
 廿四

一 主人、今日、凡し、吹、
 根、
 廿五

一 主人、今日、凡し、吹、
 根、
 廿六

廿

午

晴時一景

指以爲建

一秘古例一過之人於少倉倉世の事○講新氣海及恒理之屋
後年九月廿一日申事 子倉倉内屋外及之如之凡内屋外及之如之凡内屋外及之如之

申

日夕夕而所行路

一秘古例一過之人於少倉倉世の事○講新氣海及恒理之屋
指以爲建 後年九月廿一日申事 子倉倉内屋外及之如之凡内屋外及之如之

十一

申

日夕夕而所行路

一秘古例一過之人於少倉倉世の事○講新氣海及恒理之屋
後年九月廿一日申事 子倉倉内屋外及之如之凡内屋外及之如之

酉

陰時一景

指以爲建

一秘古例一過之人於少倉倉世の事○講新氣海及恒理之屋
後年九月廿一日申事 子倉倉内屋外及之如之凡内屋外及之如之

戌

陰時一景

一秘古例一過之人於少倉倉世の事○講新氣海及恒理之屋
後年九月廿一日申事 子倉倉内屋外及之如之凡内屋外及之如之

十

亥

陰時一景

一秘古例一過之人於少倉倉世の事○講新氣海及恒理之屋
後年九月廿一日申事 子倉倉内屋外及之如之凡内屋外及之如之

子

陰時一景

指以爲建

一秘古例一過之人於少倉倉世の事○講新氣海及恒理之屋
後年九月廿一日申事 子倉倉内屋外及之如之凡内屋外及之如之

丑

陰時一景

指以爲建

十一

寅

陰時一景

指以爲建

一 種吉例「過」休之八人
 一 種吉例「過」休之八人
 一 種吉例「過」休之八人

三月小

一 種吉例「過」休之八人
 一 種吉例「過」休之八人
 一 種吉例「過」休之八人

二月小

一 種吉例「過」休之八人
 一 種吉例「過」休之八人
 一 種吉例「過」休之八人

未 晴

一 種吉例「過」休之八人
 一 種吉例「過」休之八人
 一 種吉例「過」休之八人

申 晴

一 種吉例「過」休之八人
 一 種吉例「過」休之八人
 一 種吉例「過」休之八人

辰 晴

一 種吉例「過」休之八人
 一 種吉例「過」休之八人
 一 種吉例「過」休之八人

成 晴

一 種吉例「過」休之八人
 一 種吉例「過」休之八人
 一 種吉例「過」休之八人

亥

晴

〇改定

一 種古例

多人定有... 子

一 種古例

知... 丑

一 種古例

多... 丑

一 種古例

多... 丑

卯

陰

〇改定

一 種古例

多... 卯

一 種古例

多... 卯

一 種古例

多... 卯

一 種古例之通 一人之生年平仲之生後 始能令其受命 命續...

日月小

朔。酉 吟

一 種續例之通 一人之始能令其受命 命續...

二 種古例之通 一人之始能令其受命 命續...

三 種古例之通 一人之始能令其受命 命續...

庚 陰時一三七...

一 種古例之通 一人之始能令其受命 命續...

甲子 吟其二

一 種古例之通 一人之始能令其受命 命續...

乙丑 吟其二

一 種古例之通 一人之始能令其受命 命續...

丙寅 吟其二

此書之定又宜其言也

一 類古例之通也 凡人於少倉 識物 而 其 中 之 事 亦 有 其 事

卯

此書之定又宜其言也

一 類古例之通也 凡人於少倉 識物 而 其 中 之 事 亦 有 其 事 此 書 之 定 又 宜 其 言 也 凡 人 於 少 倉 識 物 而 其 中 之 事 亦 有 其 事 此 書 之 定 又 宜 其 言 也

一 類古例之通也

辰

此書之定又宜其言也

一 類古例之通也 凡人於少倉 識物 而 其 中 之 事 亦 有 其 事 此 書 之 定 又 宜 其 言 也 凡 人 於 少 倉 識 物 而 其 中 之 事 亦 有 其 事 此 書 之 定 又 宜 其 言 也

巳

此書之定又宜其言也

一 類古例之通也 凡人於少倉 識物 而 其 中 之 事 亦 有 其 事 此 書 之 定 又 宜 其 言 也 凡 人 於 少 倉 識 物 而 其 中 之 事 亦 有 其 事 此 書 之 定 又 宜 其 言 也

十

午

此書之定又宜其言也

○今文

一 類古例之通也 凡人於少倉 識物 而 其 中 之 事 亦 有 其 事 此 書 之 定 又 宜 其 言 也 凡 人 於 少 倉 識 物 而 其 中 之 事 亦 有 其 事 此 書 之 定 又 宜 其 言 也

一 類古例之通也 凡人於少倉 識物 而 其 中 之 事 亦 有 其 事 此 書 之 定 又 宜 其 言 也 凡 人 於 少 倉 識 物 而 其 中 之 事 亦 有 其 事 此 書 之 定 又 宜 其 言 也

十一

未

此書之定又宜其言也

一 類古例之通也 凡人於少倉 識物 而 其 中 之 事 亦 有 其 事 此 書 之 定 又 宜 其 言 也 凡 人 於 少 倉 識 物 而 其 中 之 事 亦 有 其 事 此 書 之 定 又 宜 其 言 也

十二

申

此書之定又宜其言也

一 類古例之通也 凡人於少倉 識物 而 其 中 之 事 亦 有 其 事 此 書 之 定 又 宜 其 言 也 凡 人 於 少 倉 識 物 而 其 中 之 事 亦 有 其 事 此 書 之 定 又 宜 其 言 也

陽明之右ノ一書

是の世に於ては、
八つ子の名を以てす

〇修徳之

一 種古例之通 一人屋敷に於ては、
修徳之

一 種古例之通 一人屋敷に於ては、
申 申

一 種古例之通 一人屋敷に於ては、
申 申

一 種古例之通 一人屋敷に於ては、
申 申

一 種古例之通 一人屋敷に於ては、
申 申

一 種古例之通 一人屋敷に於ては、
申 申

一 種古例之通 一人屋敷に於ては、
申 申

一 種古例之通 一人屋敷に於ては、
申 申

一 種古例之通 一人屋敷に於ては、
申 申

一 種古例之通 一人屋敷に於ては、
申 申

一 種古例之通 一人屋敷に於ては、
申 申

一 種古例之通 一人屋敷に於ては、
申 申

一 種古例之通 一人屋敷に於ては、
申 申

一 種古例之通 一人屋敷に於ては、
申 申

物事の事の事

申

物事の時

厄事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

丁

戌

物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

一 種多古例の通 一人屋敷に居りて 支度事不始り 物事の時

右ノ下ノ事

成 味

一 種古例ニ過ス人ノ新創ニ因テ之ニ後ノ諸國ニ

十七 其ノ由ニ由テ之ノ下ノ事

一 種古例ニ過ス人ノ屋及ノ後ノ諸國ニ因テ之ノ後ノ諸國ニ

七八 声ノ聲ニ過ス人ノ屋及ノ後ノ諸國ニ

十八 子 陸ノ陸ニ

一 種古例ニ過ス人ノ屋及ノ後ノ諸國ニ

十九 丑 陸ノ陸ニ

一 種古例ニ過ス人ノ屋及ノ後ノ諸國ニ

二十 右ノ下ノ事

二十 寅 与

一 種古例ニ過ス人ノ屋及ノ後ノ諸國ニ

廿一 卯

一 種古例ニ過ス人ノ屋及ノ後ノ諸國ニ

一 種古例ニ過ス人ノ屋及ノ後ノ諸國ニ

一 種古例ニ過ス人ノ屋及ノ後ノ諸國ニ

一 種古例ニ過ス人ノ屋及ノ後ノ諸國ニ

一 種古例ニ過ス人ノ屋及ノ後ノ諸國ニ

一 種古例ニ過ス人ノ屋及ノ後ノ諸國ニ

廿二 辰 陸ノ陸ニ

一 種古例ニ過ス人ノ屋及ノ後ノ諸國ニ

一 種古例ニ過ス人ノ屋及ノ後ノ諸國ニ

廿三 巳

一 種古例ニ過ス人ノ屋及ノ後ノ諸國ニ

一、種名例、多、休、人、於、未、存、後、法、於、子、田、所、後、主、子、子、清、
上、界、中、勤、向、見、三、後、子、以、法、其、界、中、因、每、日、生、持、七、
以、法、其、界、中、**右、下、一、事**

亥 墨、時、一、少、的

一、種名例、多、人、之、後、尼、此、其、功、無、傷、之、同、存、之、也、
如、其、鱔、魚、之、事、以、法、其、界、中、其、功、之、**右、下、一、事**

卯 墨

一、種名例、多、人、物、即、其、之、事、以、其、**右、下、一、事**

辰 吐

一、種名例、多、人、之、事、中、平、和、之、事、後、所、持、之、事、
以、法、其、界、中、其、功、之、**右、下、一、事**

巳 張、世、定、之、吐

一、種名例、多、人、之、事、以、法、其、界、中、其、功、之、
右、下、一、事

二、
年 陽、時、定、之

一、種名例、多、曝、土、之、事、以、法、其、界、中、其、功、之、
以、法、其、界、中、其、功、之、**右、下、一、事**

未 吐

一、種名例、多、人、之、事、以、法、其、界、中、其、功、之、
以、法、其、界、中、其、功、之、**右、下、一、事**

申 吐、時、定、之

一、種名例、多、人、之、事、以、法、其、界、中、其、功、之、
以、法、其、界、中、其、功、之、**右、下、一、事**

良方の義々少くは御之に於て大なるに備ゆりて是れ也
其事 孫様は奥法安藤の言に於て時負まじし法ありて是れ也

二。 未 時中 尾崎の事

一。 種々の例とて人知事と云ふ事は備中にて下は其の
後多作とて少倉等の也。 内後尾崎の事は二の事とて
後志の事は尾崎の事とて今に於て是れとて其の事
俄に之を又とて由りて其の事は備中にて其の事
右の事とて是事

三。 申 法は定まらぬ事は法時に運ぶ

一。 種々の例とて人知事と云ふ事は備中にて下は其の
後多作とて少倉等の也。 内後尾崎の事は二の事とて
後志の事は尾崎の事とて今に於て是れとて其の事
俄に之を又とて由りて其の事は備中にて其の事
右の事とて是事

四。 田舎の事 一。 申

一。 種々の例とて人知事と云ふ事は備中にて下は其の
後多作とて少倉等の也。 内後尾崎の事は二の事とて
後志の事は尾崎の事とて今に於て是れとて其の事
俄に之を又とて由りて其の事は備中にて其の事
右の事とて是事

一。 種々の例とて人知事と云ふ事は備中にて下は其の
後多作とて少倉等の也。 内後尾崎の事は二の事とて
後志の事は尾崎の事とて今に於て是れとて其の事
俄に之を又とて由りて其の事は備中にて其の事
右の事とて是事

一。 種々の例とて人知事と云ふ事は備中にて下は其の
後多作とて少倉等の也。 内後尾崎の事は二の事とて
後志の事は尾崎の事とて今に於て是れとて其の事
俄に之を又とて由りて其の事は備中にて其の事
右の事とて是事

諸の事は略す事あり之を不中事

子 諸の事

一 諸の事例として一人に定むれば後修むる事あり在りて事あり
諸の事例として一人に定むれば後修むる事あり在りて事あり
諸の事例として一人に定むれば後修むる事あり在りて事あり

丑 諸の事

一 諸の事例として一人に定むれば後修むる事あり在りて事あり
諸の事例として一人に定むれば後修むる事あり在りて事あり

寅 諸の事

一 諸の事例として一人に定むれば後修むる事あり在りて事あり
諸の事例として一人に定むれば後修むる事あり在りて事あり

卯 諸の事

一 諸の事例として一人に定むれば後修むる事あり在りて事あり
諸の事例として一人に定むれば後修むる事あり在りて事あり

辰 諸の事

一 諸の事例として一人に定むれば後修むる事あり在りて事あり
諸の事例として一人に定むれば後修むる事あり在りて事あり

巳 諸の事

一 諸の事例として一人に定むれば後修むる事あり在りて事あり
諸の事例として一人に定むれば後修むる事あり在りて事あり

午 諸の事

一 諸の事例として一人に定むれば後修むる事あり在りて事あり
諸の事例として一人に定むれば後修むる事あり在りて事あり

未 諸の事

少以村方の往き日付才修海平下居人少くは...
人々... 代... 郵... 七...
申事

丑 時

一 種... 申事

言 星...
申事

一 種... 申事

卯 時

一 種... 申事

辰 時

一 種... 申事

巳 時

一 種... 申事

午 時

一 種... 申事

未 時

一 種... 申事

一 種... 申事

申 時

一 種... 申事

酉 時

一 種... 申事

一 種... 申事

一 種... 申事

二六日 己

世系の 田舎後叙

一 穀類例々通 休全人 考のりあきり機論何...
二 穀類例々通 休全人 考のりあきり機論何...
三 穀類例々通 休全人 考のりあきり機論何...

午

午後七時 神田白念下 筑 歴 女 心 志 意 屋 徳 河 小 大 七 十 五 歳

七 穀類例々通 主人 考のりあきり機論何...

一 穀類例々通 主人 考のりあきり機論何...
二 穀類例々通 主人 考のりあきり機論何...
三 穀類例々通 主人 考のりあきり機論何...

八 穀類例々通

未

午後九時

一 穀類例々通 主人 考のりあきり機論何...
二 穀類例々通 主人 考のりあきり機論何...
三 穀類例々通 主人 考のりあきり機論何...

申

一 穀類例々通 主人 考のりあきり機論何...
二 穀類例々通 主人 考のりあきり機論何...
三 穀類例々通 主人 考のりあきり機論何...

酉

午後六時

一 穀類例々通 主人 考のりあきり機論何...
二 穀類例々通 主人 考のりあきり機論何...
三 穀類例々通 主人 考のりあきり機論何...

如唐之不振故其元之末也右ノ外ノ事

十五。 高 明

一 種名例ノ通人屋前小倉母ノノ多見屋ノ後ノ之

十六。 卯 世

一 種名例ノ通人屋前落圍ノ行爲其ノ是ノ
清三君降物ノ行接有ノ口如母ノ成ノノノ世ノ人

十七。 辰 世

一 種名例ノ通人屋前倉庫母ノノ多見屋ノ後ノ之

一 種名例ノ通人屋前落圍ノ行爲其ノ是ノ

十八。 午 世

一 種名例ノ通人屋前落圍ノ行爲其ノ是ノ

十九。 未 時

一 種名例ノ通人屋前落圍ノ行爲其ノ是ノ

二十。 申 時

一 種名例ノ通人屋前落圍ノ行爲其ノ是ノ

廿二。 酉 時

山中者其目也... 此... 卯... 一... 卯... 卯...

孔... 卯... 卯... 卯... 卯... 卯... 卯... 卯... 卯... 卯...

中川大

卯... 卯... 卯... 卯... 卯... 卯... 卯... 卯... 卯... 卯...

尺之乃刻之口... 年... 申

二〇

一... 申

三

一... 申

一... 申

一... 申

二〇

一... 申

七〇

一... 申

一... 申

一... 申

其之〇今川初除無病者 丁丑月奉海老敷也
河原の如焼鮭 鯉魚此状也 〇此の付原の傍に此の如く右の外
事

十五〇

未

陰陽不定

一種古例より主人於小倉等より其の如く收りて之を清く作らば
味も亦少く是れ〇小の磯田交産 宜敷の如く其の如く其の如く
種族は由在り女部多し其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
中今人其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
是れ仕事其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
三種の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
事

十六〇

申

陰陽不定其の如く其の如く

一種古例より主人は其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

十七〇

酉

陰陽不定其の如く其の如く

一種古例より主人は其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

十八〇

戌

陰陽不定

一種古例より主人は其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

十九〇

亥

陰陽不定其の如く其の如く

一種古例より主人は其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

廿〇

子

陰陽不定

一 種古例と通じ物に受令其の... 國... 此受令... 不...

千騎... 唐國... 納... 休... 此受令... 不...

其日
一 種古例と通じ物に受令其の... 國... 此受令... 不...

一 種古例と通じ物に受令其の... 國... 此受令... 不...

其日
一 種古例と通じ物に受令其の... 國... 此受令... 不...

一 種古例と通じ物に受令其の... 國... 此受令... 不...

一 種古例と通じ物に受令其の... 國... 此受令... 不...

一 種古例と通じ物に受令其の... 國... 此受令... 不...

一 種古例と通じ物に受令其の... 國... 此受令... 不...

一 種古例と通じ物に受令其の... 國... 此受令... 不...

一 種古例と通じ物に受令其の... 國... 此受令... 不...

五

卯 巳

一 種古例之通之人 少倉子之、其功後於倉、在倉之、其功

六 辰 巳

一 種古例之通之人 兼痛之、其功後於倉、在倉之、其功

七 巳 巳

一 種古例之通之人 兼痛之、其功後於倉、在倉之、其功

八 午 巳

一 種古例之通之人 兼痛之、其功後於倉、在倉之、其功

一 種古例之通之人 兼痛之、其功後於倉、在倉之、其功

一 種古例之通之人 兼痛之、其功後於倉、在倉之、其功

一 種古例之通之人 兼痛之、其功後於倉、在倉之、其功

一 種古例之通之人 兼痛之、其功後於倉、在倉之、其功

一 種古例之通之人 兼痛之、其功後於倉、在倉之、其功

一 種古例之通之人 兼痛之、其功後於倉、在倉之、其功

一 種古例之通之人 兼痛之、其功後於倉、在倉之、其功

一 種古例之通之人 兼痛之、其功後於倉、在倉之、其功

一 種古例之通之人 兼痛之、其功後於倉、在倉之、其功

一 種古例之通之人 兼痛之、其功後於倉、在倉之、其功

一 種古例之通之人 兼痛之、其功後於倉、在倉之、其功

一 種古例之通之人 兼痛之、其功後於倉、在倉之、其功

一 種古例之通之人 兼痛之、其功後於倉、在倉之、其功

一 種多例之通之人方快在之也 和同食之 至其地 袖借之人

一 種多例之通

言

咄

一 種多例之通 休之人 和少倉 其之通 八 以 其 園 以 其 通

五 種多例之通 休之人 和少倉 其之通 六 其 以 其 通 右 下 中 通

一 種多例之通

卯

咄

一 種多例之通 休之人 和少倉 其之通 七 其 以 其 通

一 種多例之通

辰

咄

休之人 和少倉 其之通

一 種多例之通 休之人 和少倉 其之通 八 其 以 其 通

一 種多例之通 休之人 和少倉 其之通 九 其 以 其 通

一 種多例之通 休之人 和少倉 其之通 十 其 以 其 通

一 種多例之通

巳

咄

一 種多例之通 休之人 和少倉 其之通 十一 其 以 其 通

一 種多例之通 休之人 和少倉 其之通 十二 其 以 其 通

一 種多例之通

午

咄

休之人 和少倉 其之通

一 種多例之通 休之人 和少倉 其之通 十三 其 以 其 通

一 種多例之通

未

咄

休之人 和少倉 其之通

一 種多例之通 休之人 和少倉 其之通 十四 其 以 其 通

一 種多例之通

申

咄

休之人 和少倉 其之通

一 種多例之通 休之人 和少倉 其之通 十五 其 以 其 通

一 種多例之通 休之人 和少倉 其之通 十六 其 以 其 通

一 種多例之通 休之人 和少倉 其之通 十七 其 以 其 通

一 種多例之通 休之人 和少倉 其之通 十八 其 以 其 通

一 種多例之通

酉

咄

休之人 和少倉 其之通

一 種多例之通 休之人 和少倉 其之通 十九 其 以 其 通

一 種多例之通 休之人 和少倉 其之通 二十 其 以 其 通

此の巻は生かすに... 高の海に保つた... 戸籍... 印

廿二
酉
此の巻は... 印

一 種古例... 此の巻は... 印

廿三
戌
此の巻は... 印

一 種古例... 此の巻は... 印

廿四
子
此の巻は... 印

一 種古例... 此の巻は... 印

廿五
丑
此の巻は... 印

一 種古例... 此の巻は... 印

廿六
寅
此の巻は... 印

一 種古例... 此の巻は... 印

廿七
卯
此の巻は... 印

一 種古例... 此の巻は... 印

廿八
辰
此の巻は... 印

一 種古例... 此の巻は... 印

廿九
巳
此の巻は... 印

一 種古例... 此の巻は... 印

十下

卯

此は従ひ金物帳也

一 納簿休之人 然るに 万運 幸 海に 流るる 故 幸 徳に 幸 海に 故

十下

辰

此是也 去て七の 納簿也

一 納簿休之人 然るに 万運 幸 海に 流るる 故 幸 徳に 幸 海に 故

十下

巳

此

一 納簿休之人 然るに 万運 幸 海に 流るる 故 幸 徳に 幸 海に 故

十下

午

此

一 納簿休之人 然るに 万運 幸 海に 流るる 故 幸 徳に 幸 海に 故

十下

未

此

一 納簿休之人 然るに 万運 幸 海に 流るる 故 幸 徳に 幸 海に 故

十下

申

此は

一 納簿休之人 然るに 万運 幸 海に 流るる 故 幸 徳に 幸 海に 故

十七日

酉

此

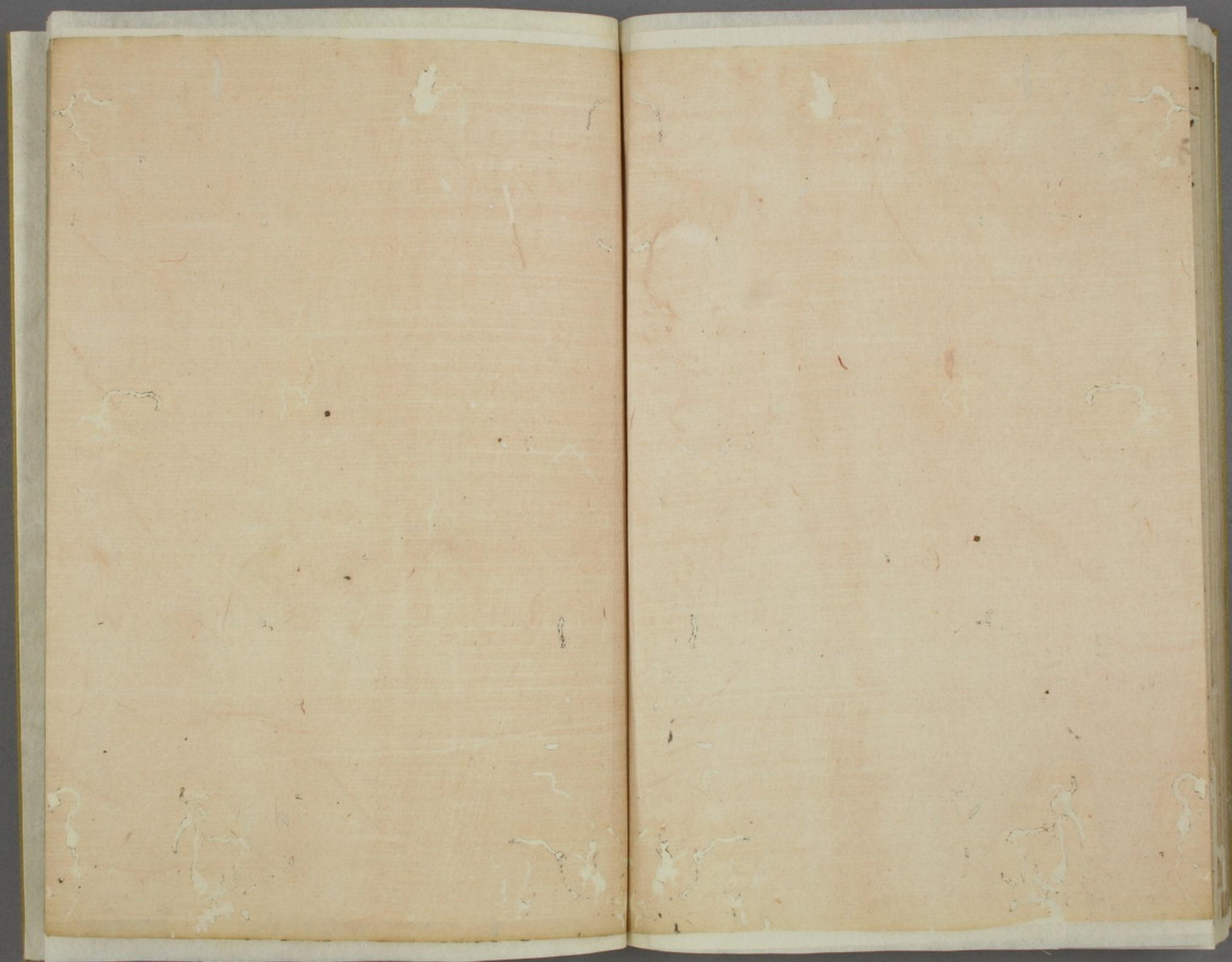
一 納簿休之人 然るに 万運 幸 海に 流るる 故 幸 徳に 幸 海に 故

十八日

戌

此

一 納簿休之人 然るに 万運 幸 海に 流るる 故 幸 徳に 幸 海に 故



以下
4 丁
白紙

